

アケビコノハ（ヤガ科）複数個体の翅が 2008年11-12月に和歌山県田辺湾の浜辺へ漂着

Wings of several individuals of *Adris tyrannus* (Noctuidae) found on the shores of Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan, in November and December, 2008

久保田 信

和歌山県田辺湾の湾口に位置する、京都大学瀬戸臨海実験所の通称“北浜”に、稀だがアケビコノハ *Adris tyrannus* の翅だけが打ち上がることがある（久保田、未発表）。今回、2008年11月と12月の計37日間の調査により、珍しく、一度に複数個体の翅が複数回漂着していたので記録する。

2008年11月26日の午後に、表側が枯葉にそっくりな前翅が2枚と、独特の斑紋をもった後翅（吉本, 1997）が1枚、“北浜”の船着場脇の砂の上に打ち上がっていた（図1）。



図1 海岸に打ちあがったアケビコノハの翅

それらは、風波によって1箇所に集められていた。

その前後の日にはアケビコノハの打ち上げは見られなかった。しかし、既に11月15日に1個体の後翅が“北浜”で打ち上がっている（久保田、未発表）。なお、この11月には上記の4日間の他に7、10、12、28、29日にも調査したが、それら5日にはアケビコノハの漂着は見られなかった。

アケビコノハの漂着は、12月に入っても、1日と2日にはなかったものの、3日に後翅が1枚、4日に前翅と後翅が1枚ずつ打ち上がった。しかし、その後の5日以降、月末31日までの24日間での調査ではまったく見られなくなった。

アケビコノハは、よく知られたように、果実を吸汁するヤガ科の1種で、さまざまな果樹の実るこの季節に多く発生する。しかし、実験所構内およびその付近で本種の成体や幼虫を目撃したことはない（久保田、未発表）。今回のように他地域でも浜辺に翅が打ち上がることがあるのかは不明だが、当地域では、海岸への漂着が起きやすい（今回の短期間調査で37回中に4回の遭遇）何らかの要因があるものと推察される。

謝 辞

本原稿を吉本 浩氏（日本蛾類学会）に校閲して頂きましたので深謝致します。

引用文献

吉本 浩. 1997. ヤガ類. 日本動物大百科9 昆虫 II, 平凡社, 東京. pp. 94-96.

（くぼた しん 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）